

## 総合討論（座長：高橋清孝、佐藤弘樹）

Q（座長）：藤本氏の講演についてですが、ゼニタナゴが産卵する二枚貝の減少要因として、食害、環境悪化、過剰産卵など個々の減少要因が知られている。私たちはアメリカザリガニによる二枚貝の食害が多数見られるので、これにより減少した二枚貝が、最終的に過剰産卵によって大きなダメージを受けると考えている。これらの関係についてどのように考えていますか？

A（藤本）：その通りだと思う。他の水生生物の存在や水質などが減少要因となるのだろう。池が大きいほうが安定しやすいように感じる。今後、解明していく必要がある。貝とタナゴのバランスが崩れると過剰産卵により両者とも、さらに、減ってしまう。

Q：過剰産卵について、どう対策すべきか。産卵時期である秋に、貝を短期間のみ入れて産卵数の抑制を試みたことがあったが、やはり集中的に産卵しうまく行かなかった。

A（藤本）：ゼニタナゴは、既に産み付けられている貝を避けるが、貝に対してタナゴが20倍以上いると抑制が効かなくなる可能性がある。

Q：かつて多く見られたタイリクバラタナゴを見かけなくなった。なぜか。

A（藤本）：ゼニタナゴと同じく、産卵基質とする貝が減っていることが大きい（藤本）。

A（高橋）：2000年前後に多くのため池でブラックバスが侵入し食害により全滅した。これにより激減したことが考えられる。

Q：横山氏から当地里山の植生について大変貴重な情報提供していただき感謝しています。時間が足りなかったようなので、追加情報があればお聞きしたい。

A（横山）：講演では蘚苔(コケ)植物についてしか扱わなかったが、水草も調査している。かつて、鹿島台のため池では水草が繁茂していたが、アメリカザリガニによって2010年頃から多くの池で見られなくなってしまった。直近ではシナイモツゴ郷の会がザリガニを減らしており、また種子は10年程度のあいだ長期休眠するので、そろそろ再び見られるのではないかと期待している。ミズオオバコ、クロモ、ミズヒキモなど。

Q：近年、かつては厚く凍結していたため池が地球温暖化の影響か、全面的には凍結しなくなった。生物に対する影響はあるか。例えば、貝と、その中で越冬するゼニタナゴの関係に対してなど。

A（藤本）：地球温暖化の影響は大局的であり、すぐには分からないが、ゼニタナゴの過剰産卵が見られるようであれば、何らかの対策を打つ必要があり、現在はその方法を検討している。

Q：(池田氏の講演について) ミステリークレイフィッシュは15°Cを下回ると繁殖しないとのことだったが、同種が誕生し野生下に広がっているドイツの冬は15°Cを下回るのではないか。

A（池田）：湧水池などだと温度が高くなりやすい。ドイツのどのような水域に広がっているのか分からないため、詳細不明。